

高専 4.0 イニシアティブ採択事業

「学内留学を中心としたキャンパス国際化を推進する取組」実施報告

平成 30 年度国際交流センター長 小林美学

1. はじめに

国際的に活躍できる技術者を輩出するために本校では 2016 年に韓国のクモ工科大学と海外交流協定を締結し、学生の相互派遣を始めた。これを機に、さらに学生が国際的な素養を身につけることをめざして、学内留学を中心としたキャンパス国際化を推進する取り組みを始めた。

学内留学は、「国際化を留学などの移動を伴う計画に頼るべきではなく、むしろ学生の多くが留学しないであろうという事実を考慮しなくてはならない」というスウェーデンのマルメ大学が提唱した IaH (Internationalization at Home) のコンセプトに基づき、学内の国際化を推進することで、自国にいながらも学生が国際的な素養を身につけることが可能な環境を整える取り組みである。本校では学内標識の国際化や留学生に対する支援の強化、異文化理解を身につけるための授業の開講、留学生との交流行事の開催などを行うことにした。

本取り組みは平成 29 年度と 30 年度の 2 年間、高専 4.0 イニシアティブに採択された。ここではその 2 年間の取り組みについて報告する。

2. 学内留学の推進

日本人学生がふだんから外国語に慣れ親しむとともに留学生や海外からの来校者の便を図るために、それまで日本語のみであった学内の案内板や道標を、日本語と英語の 2 ヶ国語表示とした。また建物の表札は日本語に英語、中国語、韓国語 (ハングル文字)、タイ語を加えた 5 ヶ国語表示として、これらの言語を Web でも確認できるように QR コードも添付した。

授業においては、異文化を理解するために必要な知識と、それをコミュニケーションに活用できる能力を身につけることを目的とした「国際理解」を、選択科目の一つとして平成 30 年度から開講した。また図書館においては本校教員が選定した理工学系の各分野の英字教科書 37 冊を購入し、配架した。

また日本人学生が留学生の出身国の文化に触れたり、留学生と交流したりすることを目的とした交流プログラムを平成 29 年度に実施した。この行事では学生寮の食堂を利用して、ナシゴレン (マレーシアの炒飯) やグライアヤム (インドネシア風チキンカレー)、トムスニーホチマル (モンゴル風マッシュポテトとひき肉の重ね焼き) など、留学生たちが考えた自国の料理のメニューを夕食として参加者に提供した。また留学生自身がメニューや自国

の文化を紹介し、簡単なクイズなども行った。平成 30 年度は学内では学生会が 12 月に自主的に学内の交流行事を企画した他、学外でもクモ工科大学学生と本校学生との国際シンポジウム「Japan / Korea Technical Symposium in Numazu」を 1 月に開催し、工学的な交流を実施することができた。

3. 海外経験の促進

学生が実際に海外での経験を積めるように、これまでは国内の工場を対象にしていた 4 年次の工場見学旅行を、平成 31 年度からは海外の工場を対象にして実施するように準備した。平成 31 年度の行き先は台湾を予定している。また図書館に国際交流や言語教育、海外留学に関する書籍を揃え、海外留学や研修に関する学生向けの情報は学生係横に集約するなど、自主的に海外での経験を積もうとする学生への支援を強化した。

4. 留学生への支援強化

日本人学生とは異なる文化的背景をもつ留学生を学内に増やすために、留学生の生活や学習に関する支援の強化を行った。

以前より、3 年次に編入学して本校を卒業していく留学生（長期留学生）については 3 年次と 4 年次に、日本人学生が留学生の学習面や生活面を支援するチューター制度を設けていた。その支援の質を高めるために、年に 2 回、外部講師を招き、チューター学生を対象にした研修会を設けることにした。研修会ではチューターの役割や異なる文化を背景にする人たちへの接し方に関する講義、OB や OG チューターらの体験談の披露、チューター活動についてのグループ討議などを行った。この研修会は支援の質を高めることで長期留学生へのサポートを手厚くすることが第一の目的であったが、年 2 回実施することでチューター学生への支援の場ともなった。また学習面の支援としては学習サポートセンターが中心になって音声教材の作成も行った。

一方で海外提携校から 2 週間から 1 ヶ月ほど滞在する留学生（短期留学生）については、滞在期間中により快適に生活できるように、福利厚生施設である尚友会館の 2 階を整備することにした。尚友会館 2 階にある共用室と共通教室の 2 室にはベッドのまわりにカーテンレールを設けて、簡易的にプライベートを確保できるようにした。ベッドには折りたたみ式のものを使用し、短期留学生が滞在していない期間はベッドを片付けることでこれまでとおおり共用室や共通教室として使用できるようにした。共用室には簡単な調理ができるように流し台、IH キッキングヒーター、冷蔵庫、電子レンジなどを設置し、洗濯機と乾燥機も用意した。また共用室と共通教室の間には、シャワー室も設置した。

5. 海外提携校の拡充

2016 年に海外交流協定を締結したクモ工科大学（韓国）に引き続き、2018 年 5 月にはウ

ェスタンミシガン大学（アメリカ）と交流協定を結び、翌年3月に本校学生を派遣した。さらに2018年9月にはウソク大学（韓国）と新たに交流協定を結び、学生を派遣した。

6. 終わりに

以上、本校の学内留学を中心とした国際化の取り組みについて、高専4.0イニシアティブ採択期間の2年間について簡単に述べた。本事業を実施するにあたっては、平成28年度は7名であった短期留学生の年間受け入れ者数を平成30年度には10名にすることを数値目標としてあげ、それを達成することができた。高専4.0イニシアティブは平成30年度を持って終了したが、平成31年度以降も引き続き学内の国際化を進める予定である。